

RUBeC 演習を終えて

小漆間 拓人

Takuto OURUMA

電子情報学専攻修士課程 1年

1. はじめに

私は2017年8月19日から9月4日の期間にカリフォルニア州のバークレーで行われたRUBeC「Ryukoku University Berkeley Center」演習に参加した。RUBeCとは、アメリカのカリフォルニア州バークレー市にある龍谷大学の北米支部（浄土真宗センター）へ行き、英語力（主にSpeaking, hearing）の向上を目的としている。授業内容は、自分自身のAbstractの添削と学会発表を目的としたPresentationを学ぶことである。今回は現地での活動内容を報告する。

2. 授業内容

2.1 Abstract

この授業では、大文字の区分、前置詞、副詞や形容詞の活用形、冠詞、といった普段から何となく使っている部分を細かく学んだ。宿題ではペアインタビューの内容や、地球が抱えている問題を英文化することで英語の文章を書きあげる力を身に着けた。また、その中で起承転結を含んだ文章を作成する難しさや重要性を知った。そして、得た知識を活用することで、事前に作製しておいたAbstractの添削を行った。

2.2 Presentation

この授業は、学会で発表する際に必要となってくるPresentation力の向上が目的である。主に文章中の節を決めるチョンクや、文章中の重要な部分を強調することで内容を理解し易くするワードストレスを学んだ。その他にも、意思を伝えるアイコンタクト、身ぶり手ぶりで伝えるジェスチャー、自信を伝える姿勢、声の大きさ等のプレゼンを行う際の動作



図1 授業風景

を教えて頂いた。さらに、聞き手に理解してもらうにはシンプルかつ情報量を載せすぎないスライドの作成が重要であることを学んだ。

3. 企業、大学訪問

3.1 UC Davis

8月23日の水曜日にUC Davisを訪問した。UC Davisは1962年に設立し、動物医療、医療、工学、中でも農業学が盛んな大学だ。いろんな分野とコラボレーションすることを重要視しており、学科、学部を飛び越え、互いに技術を提供し合うことで双方発展をめざしていた。学部生の人数は35000人程で、院生の数は8000人である。また、カリフォルニアの首都であるサクラメントまでは自動車でも15分と比較的に近く、産業、農業、公害といった問題の情報が集まりやすくなっている。このことにより、何が課題で、地域を良くしていくには何が必要なのかを考え易くなっている。また、UC Davisには音楽や芸を観ることができる講堂や、生徒が望んだフィットネスジム等がある。そして、実験施設では地層の研究が盛んであり、それは干ばつがひどいカリフォルニア州だからこそ水源の発見は必須だと感じられた。UC Davisでは今課せられている問題の解決法を応用すればいろんな課題の解決に繋げようとする姿勢が多く視られた。このような地域に密着した研究の取り組む姿勢を、是非参考にしたいと思った。

3.2 KEYSIGHT

次に、8月30日に電子測定機器を扱っているKEYSIGHTを訪問した。前会社は1939年に設立され、KEYSIGHTは1972年に設立された。現在、2952件の特許を有しており、最初の特許は1939年にガレージで発明されたサウンドメカニク200号である。その装置の8台が初代のディズニールンドで使用された。KEYSIGHTでは、タッチパネル、ソフトウェア、およびハードウェアのすべての作成を行っている。今回は、IC製造施設、製品の耐久検査施設、加工施設を見学した。IC製造施設のウェハ製造では300種類もの回路を製造し、100GHzまでの集積回路を作ることが可能である。また、回路製造のために1つの層を製作するのに3日を有し、さらに、最大23層ともなれば半年という歳月が必要である。次に検査部門では、1.5mからの落下試験や共振実験を行うことや、電磁波のない部屋を用いることで品質をクリアするための検査を日々行っていた。最後に加工施設には、電気加工、物理加工、化学加工があり、どの施設でも何かを作ること誇りを持っていた。また、月に1回開催される写真コンテスト、社員で営んでいるガーデニング、スポーツ大会をも開催していて、適度のブレイクタイムを大切にしており、皆が会社での仕事を楽しんでいるのだと感じられた。

4. おわりに

今回の演習を通して、現地の暮らしや語学を学ぶ



図2 企業訪問時の集合写真

ことが自分の世界を広げるカギとなることが分かった。しかし、授業や交流を重ねていくと日本人学生の語学能力が世界水準より低いということを痛感した。ただ、このことを気付けたことが大きな経験であり、今後の目標や課題の具体化に繋がった。なぜなら、私は来年の9月から留学をしたいと考えていたからである。そもそもこの演習に参加した理由も留学を見据えてのことだったので、いかに語学勉強や現地の歴史やルールを知る、といった事前準備が重要だということがわかった。さらに、事前準備の質で留学の価値が大きく変わるのだと気付くことができた。そして、RUBeC演習を通して自分の将来像をつかめた事が一番の成果だった。

最後になりますが、演習中お世話になった富崎先生、大津先生、小野先生、曾我先生、田原先生に、深くお礼申し上げます。